

令和3年度

特色ある学校づくり

—亀山市特色ある学校づくり推進事業 実践報告書—

令和4年3月

亀山市教育委員会

はじめに

これからの日本は、人生 100 年時代を迎えようとしており、さらに超スマート社会 (Society5.0) の実現に向けて人工知能の活用など、技術革新が急速に進んでおります。また、社会では、少子高齢化、情報化、グローバル化、ライフスタイルや価値観の多様化などが一層進み、人口減少、雇用環境の変化による所得格差、持続可能な社会保障制度、災害からの復興、環境問題、新型コロナウイルス感染症の流行など様々な課題に直面しております。こうした問題は、「誰かが何とかしてくれる」という受け身の姿勢ではなく、自分たちが「当事者」として自分たちの学校や地域を創り上げていくということを強く意識する必要があります。今後の社会の在り方を見据え、学校が社会や世界の接点を広げ多様なつながりの中で子どもたちが学んでいけるよう教育課程を開かれたものとするのが不可欠です。また、子どもたちに求められている資質・能力を育てていくために、教育課程を介して目標を学校と社会が共有し、子どもたちに育成すべき資質・能力を明確化するとともに、地域の人的・物的資源を活用し、社会と連携・協働しながら開かれた学校教育を展開することが必要です。

亀山市におきましては、亀山市学校教育ビジョンのもと、亀山の豊かな自然や歴史文化、芸術・芸能などを大切な教育資源として活用する教育を進め、今年度全ての学校に設置されました学校運営協議会等の組織や人的環境を活用し、地域ならではの創意や工夫、強みを活かした特色ある学校づくりを推進してまいりました。

今後も、各校が地域の教育資源を最大限に活かした独創的な教育活動を展開し、魅力に満ちた特色ある学校づくりを行うことで、子どもたち一人ひとりの「確かな学力」の育成、「心の教育の充実」を図るとともに、より一層地域から信頼される学校づくりを目指してまいります。

結びに、本事業の取組に関しまして、多大なご支援・ご協力を賜りました保護者・地域の皆様、関係機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

亀山市教育委員会教育長 服 部 裕

目次

I	特色ある学校づくりにむけて	1
	1. 特色ある学校づくりとは	2
	2. 特色ある学校づくりをすすめるために	3
	3. 成果と課題	5
II	各学校の取り組み	6
	・かめやま西小 エストウディオ大作戦 ～家庭・地域に支えられ、ともに歩む学校づくり～ 亀山市立亀山西小学校	7
	・今日も楽しく明日が待ち遠しい学校づくりプロジェクト ～地域の中で生き生きと学び豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成～ 亀山市立亀山東小学校	9
	・地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～ 亀山市立昼生小学校	11
	・地域の中で、みんなで生き生きと学べ！！川崎っ子の育成 亀山市立川崎小学校	13
	・生きてはたらく力の育成 ～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～ 亀山市立野登小学校	16
	・であい、ふれあい、そして 未来へ ～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～ 亀山市立白川小学校	18

-
- ・つなごろう 笑顔いっぱい やなぎっ子
亀山市立神辺小学校…………… 20

 - ・笑顔いっぱい！ 進んでチャレンジする井田川っ子の育成
亀山市立井田川小学校…………… 22

 - ・みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成
亀山市立亀山南小学校…………… 24

 - ・じぶんで なかまと ふるさとから 夢豊かに学ぶ 関っ子
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、みんなでわかり、
意欲的に活動する子の育成～
亀山市立関小学校…………… 26

 - ・「加太を大切に思う子の育成」
～子どもたちが生き生きと活動するために～
亀山市立加太小学校…………… 28

 - ・地域を支え次代を担うたくましい人づくり
～地域とともに生徒が育つ学校をめざして～
亀山市立亀山中学校…………… 30

 - ・「学校・保護者・地域が一体となった人づくり
～心豊かにたくましく～」
亀山市立中部中学校…………… 32

 - ・幸せ関中学校計画
～子ども達の夢を叶えるために～
亀山市立関中学校…………… 34
-

I 特色ある学校づくりにむけて

1. 特色ある学校づくりとは

特色ある学校づくりを進めることの意義は、平成29年3月に新たに策定した「亀山市学校教育ビジョン」の基本目標2「学校・家庭・地域の連携と協働による教育力の向上」における基本的な考えとして、次のように示しています。

子どもたちの生きる力は、学校だけで育まれるものではなく、家庭における教育はもちろんのこと、多様な人々とのかかわりやさまざまな経験の積み重ねの中で育まれます。子どもや学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、その解決には、これまで以上に学校・家庭・地域の連携・協働が必要です。

本市では、すべての学校において、学校力・教師力を向上させ、家庭・地域に信頼される特色ある学校づくりを進めます。また、家庭の教育力向上や、地域の人材・活動を活用した教育活動の充実等についての話し合いを通して、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、めざす子どもの姿を共有し、一体となって教育活動に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進め、関係機関とも連携しながら、教育力の向上を図ります。

また、具体的な施策のあり方については、次のように位置づけています。

2-（1）特色と信頼のある学校づくり

①魅力ある個性をもち、地域とともにある学校づくり

すべての子どもたちがその人権を保障され、なかまとともによく学びよく遊び、楽しく充実した学校生活を過ごすことができるよう、学校は、地域の特色や子どもの実情に合わせた創意工夫ある教育活動を展開する「魅力ある学校づくり」を進めます。また、教育課程や予算などについて学校裁量の拡大を図り、自主的、自立的な学校運営ができるように努めます。

学校は子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて設定した学校教育目標を実現するために、家庭・地域とも連携・協働しながら、学校全体で「カリキュラム・マネジメント」（教育課程の編成・実施・評価・改善）やアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に取り組み、学校教育力の向上を図ります。

子どもたちが身近な地域を含めた社会とのかかわりの中で豊かに学び、自分たちの力で社会をよりよく変えていくことができるという実感をもち、地域とともにある自立した社会人として成長できるように、各学校が、目指す「学校像・子ども像」や課題を地域住民等と共有する機会をもち、地域の特色や人的・物的資源を活かした体験活動を充実させる等、「社会に開かれた教育課程」を実現させ、地域とともにある学校づくりを進めます。

学校及び地域の活性化を図り、子どもたちにつけたい資質・能力を効果的に育むために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）等の組織や人的環境を最大限に活用し、地域ならではの創意や工夫、強みを活かした特色ある学校づくりを一層進めます。

それぞれの学校においては、その学校にふさわしい教育活動を創意工夫して、特色ある学校づくりの実現を目指すこととなります。

2. 特色ある学校づくりをすすめるために

(1) 特色ある学校づくりと「学力の向上」

学力の向上を図ることと、体験的な学習や問題解決的な学習を重視して子どもの生き生きとした活動をつくり出すこととは、どちらも重要です。その両方の実現のためにこそ、特色ある学校づくりが求められています。

学校において重要なことは、創意工夫して特色ある学校づくりを進め、こうした学力が確実に身につくようにすることと考えます。

(2) 特色ある学校づくりと「心の教育の充実」

子ども達が豊かな人間性を育んでいくことができるよう「心の教育」を充実することは、教育の重要な使命の一つです。「時代を超えて変わらない価値あるもの」を身につける、という確固たる理念に基づいて、具体的な方策の下に進める必要があります。

子どもたちの規範意識を高め、正義感や公正さを重んじる心、人権を尊重する心、自然を愛する心などを培い、自我の形成と調和の取れた豊かな人間性や社会性の育成を図ることは、これからの学校教育において一層重要視されています。これらの教育活動は、特色ある学校づくりの一つひとつの取組の下に、大きな効果が期待できるものと考えます。

(3) 特色ある学校づくりと「社会に開かれた教育課程」の実現

特色ある学校づくりを進めるにあたっては、地域や学校、子どもの実態や願いから、子どもの学びを考えることが重要です。

保護者や地域の人々の意見や考えを学校の教育に反映させるとともに、地域の人的・物的資源を活用したり社会教育との連携を図ったりしながら、学校教育を学校内に閉じずにその目指すところを社会と共有・連携しながら「社会に開かれた教育課程」を実現させることが必要です。

こうした地域の実態等に即した地域と結ばれた特色ある学校づくりを通して、子どもの成長とともに、地域の発展や活性化も期待できるものと考えます。

(4) 特色ある学校づくりと「総合的な学習の時間」

特色ある学校づくりを進めるうえで、特に「総合的な学習の時間」において、各学校が創意工夫を生かした学習活動を積極的に展開することが重要となります。

学習テーマ、指導体制や学習活動、カリキュラム編成等、様々な視点からの特色が期待されますが、創意工夫点がはっきりしていて、子どもの学習状況が具体的に分かることが重要になると考えます。

(5) 特色ある学校づくりの方策

特色ある学校づくりへの方策は次のような例示にもあるように実に多様ですが、特色を出すことだけを目的にせず、その目的を明確にしながら、学校として統一のある、しかも一貫性をもった取組を進めていく必要があります。

また、具体的な方策は実効を挙げているかを限定的・具体的な目標（何を、いつまでに、どこまで）を設定しながら自己点検・自己評価するとともに、外部評価を積極的に取り入れ、その評価結果を保護者や地域の人々と共有することにより、特色ある学校づくりの取組や学校教育全体の改善につなげることが可能となります。

- 「総合的な学習の時間」の構築
 - 授業の1単位時間や授業時数の運用（時間割の弾力的な編成）
 - 目標や内容を2学年まとめて示した教科の指導計画
 - 体験的な学習や問題解決的な学習の重視
 - 個に応じた指導の充実
 - ・ 個別指導やグループ指導
 - ・ 補充的な学習や発展的な学習
 - ・ 教師の協力的な指導
 - 家庭や地域社会との連携や学校相互の連携や交流
- 等

3. 成果と課題

今年度の各校の取組から、以下のような成果と課題が挙げられます。

(1) 成果

- 新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、各校において、学校運営協議会を軸とし、家庭や保護者や地域の方々と協力しながら、できることは何かを考え、創意工夫しながら教育活動を進めることができました。
- 1人1台タブレット端末の効果的な活用、日々の授業改善や少人数指導、チームティーチングによるきめ細かい支援、学力保障のための補充学習、学習支援ボランティアやスクールサポートスタッフ等の人材の活用などを通して、学習の基礎・基本の定着や読書活動の推進など、各学校の実態に合わせた学力向上につながる取組が展開されました。
- 地域の人材を活かした体験活動や交流活動が、地域の方々の活動に対する思いや生き方を学ぶ学習となり、子どもたちは、地域への関心をもち、新たな発見をするとともに、地域とのつながりを深めたり自分自身を見つめたりすることができました。
- 定期的な通信の発行と学校ホームページ等の活用により、学校の取組や姿勢、考え方を保護者や地域に向けて発信することができました。

(2) 課題

- さらに、地域の人・もの・ことを活用した教育活動を推進するとともに、子どもたちが地域や社会と積極的にかかわり、主体的に学び、行動できる力を育成する必要があります。
- 今後も新型コロナウイルス感染症影響下における制限や自粛の中で、継続的に取り組める活動方法を工夫しながら、学校から積極的に情報を発信するとともに、家庭や地域と一体となって進めていく必要があります。

Ⅱ 各学校の取組

かめやま西小 エストゥディオ大作戦 ～家庭・地域に支えられ、ともに歩む学校づくり～

※エストゥディオとはスペイン語で「勉強」の意味

亀山市立亀山西小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

「確かな学力・豊かな心・健やかな体を育み、家庭・地域とともに歩む活気ある学校」をつくるために、学校運営協議会を中心とした保護者・地域との連携・協働による特色ある教育活動をすすめた。本年度は次の3点を行動計画の重点目標として設定し、取り組んだ。

- (1) 子どもの学ぶ力・共感する力の育成（すべての子どもの学びを支える教育の推進）
- (2) 学校と家庭・地域・教育機関との連携推進（校区の教育資源を最大に生かした教育の推進）
- (3) 感染予防を重点とした教育活動の推進

2 具体的な実践

(1) 子どもの学ぶ力・共感する力の育成

① 学力保障のための補充学習「パワーアップタイム」

月曜日の6限目に、「パワーアップタイム」を実施した。多くの教師が指導に関われるように体制を組み、習熟度に応じて指導できるよう、計画的な運用を行った。

② 子どもが意欲を高めるための新たな体験活動

コロナ禍の中、学校で子どもたちが豊かな体験をし、人との関りを大切にしながら活動できるよう、新たな体験活動を取り入れた。



高齢者疑似体験学習



亀山西小フェスタ



いのちの授業（助産師）

③ 西小子ども文化の継承

本校では、スポーツ鬼ごっこ、百人一首や縄跳びの大会を「西小子ども文化」に位置づけ、継続して開催している。今年度は感染対策に気をつけながら、昨年度は開催できなかったスポーツ鬼ごっこをPTA 厚生部員やCS 委員の協力を得て行うことができた。その他、百人一首、縄跳びなどを方法や期間を工夫して実施し、それぞれの目標に向かって取り組むことにより、子どもの創造性や意欲を育てることに繋がった。

(2) 学校と家庭・地域との連携推進

① 地域の人材や資源を生かした授業実践

地域の方々とつながり、地域の教育資源を最大に活かした教育を推進するために、

今年度は校内研修の研究主題を「主体的・協働的に学ぶ子どもの育成～魅力いっぱい！わたしたちの地域の人・もの・ことを通して～」とした。総合的な学習・生活科の今までの年間カリキュラムの整理・分類などカリキュラムの再構築に取り組んだ。各学年で地域の教育資源を踏まえつつ、今日的課題の中からテーマを設定し、子どもたちの興味関心、意欲がわく活動内容を研究し、学びの質の向上に努めた。



1年 秋祭り



2年 おもちゃランド



3年 お茶の学習



4年 防災教室



5年 紅茶について



6年 福祉について



② 家庭、地域との協働活動

本校は、コミュニティ・スクールとして始動して2年目を迎える。本校の教育活動がより充実したものとなるよう、学校運営協議会を中心に、月に一回の情報交流と協議の場を設けている。今年初めての取組として、児童会役員と学校運営協議会委員の方々とで、「亀山西小学校の未来について語り合う会」を開催した。子どもたちにとっては、学校をよりよくするために活動していただいている身近な大人の方々の存在を知ることができる貴重な機会となった。CS 委員から子どもたちの活動を後押ししてくれる発言に、子どもたちがよりやる気を高めている姿が印象的だった。

(3) 成果と課題

【成果】

- ・コロナ禍の中、地域の保護者、地域の方々の協力を得ながら、創意工夫をしながら教育活動を進め、成果を上げることができた。【体験活動で地域の方から教えてもらう学習の肯定的評価 77.1%→97.2% (児童アンケート)】(※数値は令和3年度第1回から第2回)
- ・児童の自己肯定感の向上や人間関係づくりなどによる「子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくり」や、多様な児童の状況に対応した支援・指導体制の確立が進んだ。

【課題】

- ・児童の多様性を大切にすることを教職員が意識し、その視点を授業づくりや学級づくりに組み込んで教育活動を展開しているが、さらなる工夫、改善、実践が必要である。
- ・コロナ禍でストレスを抱えていたり過敏な感覚をもったりしている児童の増加等により、一人ひとりに応じたきめ細かな指導をさらにすすめる必要がある。【「一人ひとりに合ったきめ細かい指導ができている」の肯定的評価が 80.3% (保護者アンケート) と他の評価に比べて低い】

今日も楽しく明日が待ち遠しい学校づくりプロジェクト ～地域の中で生き生きと学び豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成～



亀山市立亀山東小学校

1. 特色ある学校づくりの概要

本校では、めざす学校像「今日も楽しく、明日が待ち遠しい学校」の実現のため、本年度は次の4点を行動計画の重点目標として設定し、取り組んだ。

- ①楽しく意欲的な学びを育む授業改善を進め、学力の定着を図ります。
- ②仲間とともにつながり合い、高まり合う学級づくりを進めます。
- ③保護者・地域とともにある学校づくりを進めます。
- ④教職員が働きやすい環境と、ワークライフバランスを大切にします。

2. 具体的な実践

上の重点目標を達成するため、次の活動を中心にして取り組んだ。

- (1) 学びの基盤づくりとして、授業規律の徹底・授業改善・読書指導や家庭学習の充実を進めるとともに、学習環境の充実を図り、学力向上をめざす取組



①学力向上に向けての取組

本校では、授業中の返事や挙手、声の大きさ等について決まりを統一し、学習規律の徹底・授業改善・家庭学習の充実に取り組んできた。また、学期1回設定している「いえ学（家庭での学習、生活習慣の取組）」も定着してきた。



今年度は、児童が自ら課題を見つけ解決する力や情報を活用する力をつけるため、生活科、総合的な学習の時間を研究し取り組んだ。資料、友だちの考えや意見から課題を見つけ出し、課題の解決に迫るという学習を積み重ねた。情報活用の際には、ICT機器も活用した。発達段階に合わせた対話の進め方を工夫することで、児童の思考力を高めるための研究実践に取り

組み、一定の成果が得られた。

②本に親しむ子どもを育成するための取組

本年度も、図書館に学校司書により、読書量の増加、読書習慣の向上を目指した図書館の環境整備に努めた。授業でも、国語の並行読書や、辞書引き、総合での資料調査等の場を設定し、多くの読書機会を設けた。かめやまお茶の間10選（実践）とPTA教養広報部とタイアップして、親子で選書、読書の時間を過ごす取り組みも行った。

(2) 健やかな心と体の基盤づくりとして、安全・安心な環境づくりを進める取組

コロナ禍で、子どもたちが安心安全な学校生活を送れるよう、今年度は保護者の協力のもと、オンラインによる健康観察をはじめた。また、オンライン配信授業にも取り組み、希望者にはいつでも授業配信を行うことで、児童が安心して学習できる環境で授業を行ってきた。

今年度より、学校運営協議会が設立した。学校運営協議会委員には、実際の学校生活を見ていただいたことで、貴重な意見をいただくことができた。また、PTA 役員と児童会役員が校則について、真剣に考える機会を持たせていただくことができた。



(3) 学びの意欲づくりとして、地域の方とともに体験的活動を行い、生きる力を身につける取組

①地域の集いでの交流

6年生が、地域の“春のつどい”に参加し、合奏を披露したり、一緒に講演を聞いたりすることで、貴重な交流の場とすることができた。



②地域の人材活用

お茶をはじめとする農業、税の専門家などから、専門的な知識、様々な努力や課題についての講話や実体験など、子どもたちが自分の住む地域の課題やこれからの生き方について学ぶ機会を作った。また、目の不自由な方や地域のお年寄りとの交流は、子どもたちにとって互助の精神を養い、地域の良さに触れることができる貴重な場となった。さらに、学生ボランティアや登下校指導の見守りなど、地域の方々に日常的に多方面でご協力いただいている。



3. 成果と課題

【成果】

・研究領域を“生活科、総合的な学習”とし、課題の設定・解決を位置づけた研究を重ねることで、全ての教科に、児童が主体的に取り組める授業づくりを図り、学力向上や意欲の向上につながった。

【“地域や社会をよくするため何をすべきか考えている
本校：62.3% 全国：52.4%（R3 学力学習状況調査より）】

【“授業で、課題解決にむけ、自ら考え自ら取り組んだ
本校：84.1% 全国：78.2%（R3 学力学習状況調査より）】

・ICT 機器の活用により、子どもたちが安心安全な環境により学校生活を送ることができた。

【授業で ICT 機器を毎週使用している
本校：78.2% 全国：40.1%
（R3 学力学習状況調査より）】

【授業で友達との意見交流に ICT 機器を活用している
本校：71% 全国：39.0%
（R3 学力学習状況調査より）】

【課題】

・今後も、地域・保護者との連携協働で、“地域の人、もの、こと”を活用した学習を進めていく。

○全国学力学習状況調査の平均正答率（※前回R1年度、R2は中止）

第6学年	国語	算数
亀山東小の平均 * (前回R1調査)	69.3% (63.2%)	71.8% (54.3%)
亀山市の平均	66.0%	68.0%
三重県の平均	64.1%	69.3%
全国の平均	64.7%	70.2%

地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～

亀山市立昼生小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

本校では11年前より「地域とともに歩む昼生っ子」をテーマとして地域との連携を重視した特色ある学校づくりを展開している。取組の柱は、以下の3点である。

(1) 地域との連携を強化し、学校・家庭・地域が一体となった学校づくりを推進する。

＜地域とともに歩む学校づくり＞

(2) 学ぶ意欲の向上に努め、学習規律・学習習慣の定着及び授業改善により、学力の向上を図る。

＜確かな学力の育成＞

(3) 基本的生活習慣・社会的規範意識を育み、ともに高まろうとする仲間づくりを進めるとともに、子どもたち同士のつながりを深める。

＜豊かな心の育成＞

2 具体的な実践

(1) ＜地域とともに歩む学校づくり＞ および

(3) ＜豊かな心の育成＞

「自ら挨拶をする積極性を伸ばすため、気持ちの良い挨拶の習慣化(自ら挨拶する子どもをそだてるために)」をテーマに「令和2年度 第2回昼生小学校学校運営協議会」(令和2年7月15日(水)実施)で熟議を行った。その際、各委員が3色の付箋(学校の取組(ピンク)、家庭の取組(黄色)、地域の取組(緑))に各委員の考えを書き、発表した。下表は、意見の一部である。



学校の取組	家庭の取組	地域の取組
<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の必要性を学習する 児童会や集会、ポスターで取り組む 挨拶OKカードを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の第一声として挨拶をする まず、親から積極的に挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> まず、住民から子どもへ挨拶をする 見守りの人から子どもへ挨拶をする



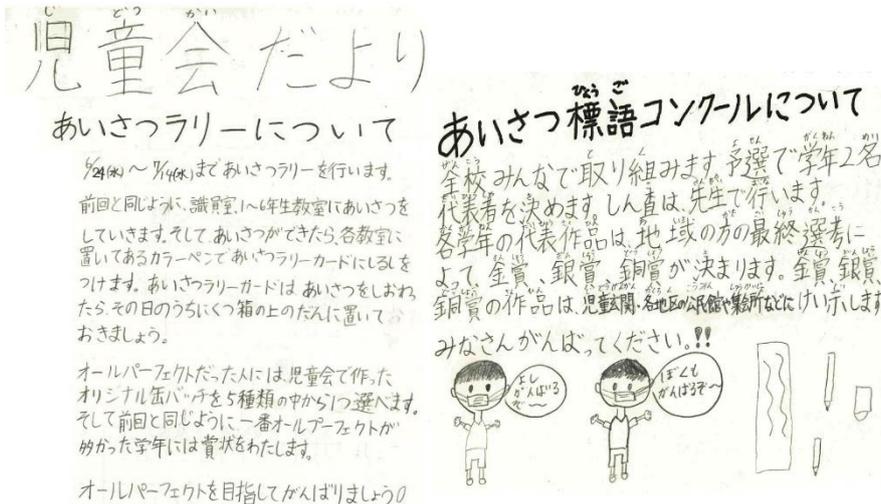
また、次のような意見も出された。「亀山市には、2,038人の外国人が住んでいる。昼生地区内には、ミャンマー、ベトナムの人が住んでいる。会社で挨拶をする研修を受けているので地域の人にも挨拶をしてくれる。外国の人と挨拶でつながることも大切にしたい。」と。このように、学校内

からでは決して出ることのない観点から、基本的生活習慣・社会的規範意識の育成の重要性を再認識させられた。

学校の取組は、児童会が中心となった。あいさつを広めていこうと、全校で「あいさつスタンプラリー」、「あいさつラリー」に取り組んだ。

さらに、全校で「あいさつ標語」の制作に取り組んだ。児童それぞれの思いや願いが詰まった標語が集まり、R3年7月の学校運営協議会で、委員の投票により啓発用の作品を3点選んでいただいた。

学校だよりで、作品を家庭や地域にお知らせした。また、標語ポスターを作成し、校内はもとよりコミュニティーセンター、各地区の集会所、郵便局、JA等へ掲示し、学校・家庭・地域の皆さんとともにあいさつを交わすつながりを広めている。



【児童会だより】



【標語ポスター】

(2) <確かな学力の育成>

①学びあい活動の充実

「ともに高めていく子どもの育成～つなげる・広がる話し合い活動を通じて」をテーマに授業研究に取り組んでいる。特に本年度は、(1)発表会にとどまらず、話し合い活動を持たせるための教師の出場・出方について、(2)「ともに高め合う子どもの育成」にむけての有効な手立てについて、という2点を視点に、全教員による授業研究および事後検討会を積み重ねてきた。



②家庭学習習慣・読書習慣の定着

家庭学習習慣の定着を図るための「自主学習ノート」や「10チャレ週間」の取組、読書習慣の定着を図るための「10読週間」の取組など、児童の自発的な取組を促す活動を児童会や委員会中心に行った。

3 成果と課題

【成果】・学校運営協議会が、学校・家庭・地域での子どもの様子や課題を共有し、改善に向け取組を進めた結果、子どもたちの行動の変容につながった。児童アンケートで、「おうちの人や地域の人にあいさつしている」の項目で、肯定的回答が100%。

【課題】・「家庭学習が習慣化している」の項目で、保護者の肯定的回答が100%であるが、児童アンケートで、「家で宿題以外の学習に取り組んでいる」の項目で、肯定的回答が67.2%であった。自主性の伸長が課題である。



1 特色ある学校づくり推進の概要

「ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校」をつくるために、「保護者・地域との連携と協働の推進」と「豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造」を柱に、特色ある教育活動をすすめた。

2 具体的な実践

(1) 保護者・地域との連携と協働の推進

①川崎の歴史・文化・人材を最大限に活用した地域関連学習の充実

川崎小学校区は、地域の教育資源「ひと・もの・こと」が非常に豊かな校区である。これらの教育資源を活かした地域関連学習を通して、子どもたちに地域への愛着と誇りを育んでいる。



5年総合 能褒野開拓団



6年総合 峯城跡見学



3年総合 里芋植え



4年総合 かんこ踊り



たんばぼ学級 コミュニティ



2年生活科 まち探検



1年生活科 サツマイモ掘り
「大きなサツマイモがとれた」



3年総合 里芋掘り
たくさんの里芋にびっくり！

②保護者・地域とともに創り上げる学校諸活動と地域行事等への参加、貢献

地域の人とのふれあいや地域での様々な体験等を通して、豊かな人間性・社会性を育んでいる。

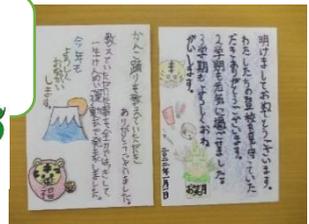


小雨が降る中でしたが、たくさんの方が見に来てくださいました。

売り上げは、社会福祉協議会に寄付します。



いらっしやいませ！
里芋、サツマイモ
はいかがですか？



川崎ふれあい文化祭のオープニングで、かんこ踊りを披露

川崎ふれあい収穫祭で、フレンドリー農園で栽培した里芋やサツマイモを販売

お世話になった地域の方々へ年賀状を送りました。



自分と仲間を大切にする心と実践力の育成～合唱コンクールへの取組～
NHK合唱コンクール出場 銅賞
第74回全日本合唱コンクール出場 銅賞
令和4年亀山市成人式での合唱披露



③地域共有ゾーンの有効活用

本校には、ふれあい活動室をはじめとする地域共有ゾーンが設けられており、子どもたちが地域の方々とはふれあい、そして学ぶ場、また、地域の方々の活動の場として活用している。



くろぼくふれあい活動

「花あそび～フラワーアレンジメント～」
「花壇及びフレンドリー農園整備」

学校ボランティア
かんこ踊り道具制作

放課後子ども教室
「文化琴」

地域の方と調理

④学校情報の積極的な発信と学校公開

昨年度（R2年度）は、新型コロナウイルス感染防止のため、授業参観等を実施できなかったが、今年度は感染予防対策を行いながら学校公開を行った。また、「川崎ふれあいフェスタ」も密を避けるため3日間に分散し、フリー参観と展示を中心に開催した。



(2) 豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造

①川崎小学校十か条に基づいた生徒指導

十か条から毎月の児童会目標（生活目標）を設定し、各学級で取組を進めている。

②学びの基礎を充実し、誰もがわかる主体的で対話的な授業改善

コロナ禍におけるICTを活用した授業の推進により、教員のICT活用能力やオンライン授業力が飛躍的に向上した。その一方で、仲間づくりや対面授業における指導技術の向上等の必要性が、ますます求められている。



3 成果と課題

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、活動に制限が生じる中でも工夫を凝らし、保護者・地域と連携・協働して教育活動を実施することができた。このことは、これまで大切にしてきた本校の特色ある教育活動の継続に加え、新たな活動の広がりにもつながった。

地域とともにある学校づくり（保護者 98.1%地域 92.3%） 子どもたちの地域への関心・参画（69.2%）情報発信（保護者 98.7%地域 92.3%）基礎学力向上（保護者 92.6%）対話的授業改善（保護者 94.8%）※数値は、肯定的評価

- ・地域の豊かな教育資源を活かした教育活動をより実り多い学習とするために、地域関連学習を含めた総合的な学習の時間のカリキュラムを縦の学年系統と横の教科横断の観点から見直し、子どもたちの主体的な学びを促進していく必要がある。

生きてはたらく力の育成

～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～

亀山市立野登小学校

1. 特色ある学校づくり推進の概要

本校では、「地域との関わりや人とのふれあいを通して、思考力・判断力を高め、伝え合う力を身につける」ことを活動のめあてとし、以下の2点を中心に取り組んだ。

- (1) 地域資源（ひと・もの・こと）を活用した「学びの意欲」づくり
 - ・野登の自然や文化、産業に触れる「ふるさと学習」
 - ・地域の文化や特色に触れ、人との交流を通して地域の良さを学ぶ
 - ・学びを発表する場の設定
- (2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり
 - ・本に慣れ親しむ習慣づくり ・「話す力・書く力」の育成
 - ・授業力の向上 ・思考の手立て ・手順の確立

2. 具体的な実践

(1) 地域資源（ひと・もの・こと）を活用した「学びの意欲」づくり

本校では、学校運営協議会を軸とし、地域や保護者と連携を図りながら、野登の自然や文化を学習に積極的に取り入れ、少人数の良さを生かした教育活動を展開している。

1・2年生は、池山公民館で地域の方に丸太切りを教わったり、どんぐりやまつぼっくりなど自然素材を使って作品を作ったりした。2年生は、去年の経験もあるので「1年生のころよりも早くできてうれしかったよ。」「丸太をうまく切れました。」と自分の成長に気づくことができた。その他にも2年生は、お店やお寺、穴虫の郷に町探検に行き、案内をしてくれた方の優しさに触れたり、見守り隊として自分たちの安全を守ってくれていることを知ったりした。3年生は、お茶つみやお茶もみ体験、4年生は、地域の伝統文化に触れる体験を行うことで地域に古くから伝わり、今まで大切に継承されているものを知ることで地域をより深く知ることができた。5年生は、米作り体験を通して、昔の人の米作りの大変さを感じるとともに10年後の野登の農業について考えることができた。



丸太切り



お茶摘み



稲刈り

学年	ふるさと学習・活動内容
1年	自然素材で工作
2年	自然素材で工作、まち探検、穴虫の郷見学
3年	茶摘み・お茶の手もみ体験、でか書道
4年	安楽川の生き物調べ、地域の伝統文化（かんこ踊り、いのこ）
5年	米作り（田植え・稲刈り・収穫祭）、野登和紙づくり
6年	野登和紙づくり・卒業証書作成、和紙作品づくり（水墨画）ろうけつ染め、地域の文化財調べ

6年生は、15年前から継続して行っている「みつまた和紙づくり」に取り組んだ。この取組を始めた頃は、地域に出かけて和紙づくりを行っていたが、現在は学校で地域の方やPTAの力を借りて作成している。材料も地域に群生している「みつまた」を使い、より質の良い和紙を作るために毎年地域の方とともに工夫を重ね、改善を加えてきている。原木の調達や煮熟など、子どもたちだけで難しい作業は、まちづくり協議会の方や野登ルンビニ園のサポート部隊の方々、PTA役員の方等の力を借りて行った。子どもたちは、このように多くの方々に温かく見守られながら取り組んでいる。



ぼくは、このみつまた卒業証書の作業全部が難しく、始めてからどんどん難易度が上がっていった最終的には、今回やった紙漉き作業が特に難しかったです。心が折れそうなくらい難しかったけど、今日教えてくださった人から学んだことがたくさんありました。これから中学生になっても、今日学んだことをたくさん友だちに教えてあげたいです。

ぼくたちができることはもう終わりですが、ぼくたちのために名前や文字を書いてくれる人たちがみえます。ぼくは、ありがたみや感謝の気持ちを込めてお願いしたいです。また、みつまたが千円札や五千円札、一万円札にも使われていることを知って、みつまたはこんなに身近なところにも使われているのだと思いました。他にもみつまたがどんなところで使われているかを調べてみたいという興味がわいてきました。 ～6年生児童 「みつまた和紙づくり」のふり返りより～

(2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり

表現力・思考力の向上をめざし、図書館活動の充実や校内研修による授業力向上を図った。

- ①「本に慣れ親しむ活動・読書活動年間計画」により、図書館まつりや読み聞かせ等計画的に取組を進めた。また、学校司書や学校図書館活用アドバイザー、読み聞かせボランティアと連携した指導を行った。このような取組を通して、子どもたちに読書する習慣や意欲が身につけてきている。
- ②論理的に「話す」「書く」ことに重点をおいた授業や一人一台端末を使った授業を行い、指導内容や指導方法について国語科の研修を深めた。教師が単元でつきたい力を明確に持つことで、題材や学習過程を工夫することができ、子どもに学習意欲を持たせることができた。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・各学年、年間を通して地域資源を活用した学習を行った。この活動を通して、子どもたちは地域の産業や文化について新たな発見をするとともに、地域の方とのつながりを深めたり、自分自身を見つめたりすることができた。
- ・継続して行っている「みつまた和紙づくり」の取組においては、子どもたちがより「みつまた」に親しみ、更に質の良い和紙づくりができるように、地域や保護者と話し合い、今後の改善策を明確にもつことができた。

＜地域・保護者アンケート＞「学校は、学校行事などを通して、保護者や地域住民と連携した教育活動に取り組んでいる」(肯定的回答 地域：100% 保護者：94%)

(2) 課題

- ・更に学校からの情報発信をするとともに、子どもたちにつけたい資質・能力を保護者や地域の方と共有し、連携・協働しながら取組を進めていく必要がある。

であい、ふれあい、そして 未来へ

～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～

亀山市立白川小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 本校の現状

① 保護者・地域～地域とともにある学校づくりを進める温かい雰囲気

保護者、地域の方々はお互いが顔見知りで、自治会をはじめ地域の諸団体の活動が盛んである。なかでも「亀山市立白川小学校運営協議会」「白川地区まちづくり協議会」を中心に、地域の核としての学校という意識も強く、みんなで子どもを育てていくという雰囲気があり、学校と地域の結びつきは深いものがある。

② 児童～縦割り班活動などにより異学年集団の強いつながり

43名の児童（特認校制度を利用している児童は13人、令和4年1月現在）の多くが元気に明るく学校生活を送っている。今年度は3・4年生と5・6年生が複式学級となっている。

(2) 取組の柱を中心とした概要～体験活動と交流活動

① 豊かな自然と保護者・地域ボランティアの支援による体験活動

ア 高学年の炭焼き・販売体験、低学年のさつまいも栽培

イ 中学年中心のFBC花壇作りや学級園での栽培体験

② 自らの生き方を見つめる出会い・ふれあいの場を広く求める交流活動

ア 特別養護老人ホーム安全の里、つくしの家の方々との交流

イ 中学年の年寄り訪問における交流

2 具体的な実践例

(1) 体験活動

稲作体験（田植え）を全校で行った。田植えは全校で行い、地域の方にも手伝っていただいた。また1・2年生は、地域の方の畑で、さつまいもの苗植え体験をさせていただいた。植え方のコツについて指導していただき、10月には、1・2年でさつまいもを掘り収穫した。収穫したいものは、給食で提供されたり、お世話になった地域の方と一緒に焼きいもにしたりしていただいた。作物を作ることの大変さや収穫することの喜びを体験した。



5・6年生は、炭焼き・販売の起業体験を行った。白川小の炭を販売するためにパッケ

ージを作成し、炭の使用目的や有用性の説明書を入れ、販売を行った。実際は地域の方が中心になって炭焼きを行い、子どもたちは炭焼きの木や竹の搬入や炭の搬出、箱詰めやパッケージングを行った。商品にして地域のうどん屋さんには置かせてもらったり J A や郵便局にポスターや商品見本を置かせてもらったりした。昨年度に引き続いて地域の方に協力をいただいて、商品の製造から販売まで取り組むことで、子どもたちとの交流が深まった。商品を地域に置くことで、コロナ禍で活動が少なくなる中、学校の活動について発信もできた。

(2) 交流活動

1・2年生は亀山製絲の方にお世話いただき、教室で蚕を育てた。成長を楽しんだり驚いたりしながら蚕を育て、生命の尊さを学んでいった。育てた蚕の繭は、1・2年生からのプレゼントとして新入生と卒業生のコサージュに姿を変え、胸に飾られる予定である。

3・4年生は、民生委員さん福祉委員さんとともに、「一人暮らし・二人暮らしのお年寄り訪問」を予定していたが自粛し、花苗とメッセージカードを代わりに届けていただいた。

また3・4年生は、特別養護老人ホーム「安全の里」と、メッセージと花の苗を届けた。5・6年生は「指定障害福祉サービス多機能型事業所つくしの家」と遠隔での交流を行った。

3 成果と課題

(1) 成果

ア 「学校は、体験活動・児童集会等で、子どもの創意を引き出し、達成感が味わえる活動を行っている。」

イ 米作り・さつまいも栽培・炭焼き・炭販売体験、蚕の飼育等を通して、地域の方との交流や地域に親しむことで、地域への学校の教育活動の発信、地域を大切にしている心や勤労生産の大切に思う心の醸成。

ウ つくしの家、安全の里の方々との交流（メッセージやテレビ会議）を通して、自分たちの周りの方々に目を向ける大切さの実感。

(2) 課題

ア 主体的に学習に取り組む姿勢等児童につけたい力の保護者・地域との共有。

イ 学校運営協議会として白川小学校の児童をどのように育てていくかの熟議と共通理解。

ウ 交流活動・体験活動が制限・自粛する中、継続的に取り組める活動方法の検討。



炭窯から搬出作業



炭の箱詰め



蚕の飼育



「遠隔で交流」

(肯定的評価 保護者 90%)

(肯定的評価 保護者 90%)

(肯定的評価 教職員 100%)

つながろう 笑顔いっぱい やなぎっ子 亀山市立神辺小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1)一人ひとりの児童が、プログラミング的思考を用いて学習課題に向かう過程において、解決の道筋を「見える化」することで明らかにし理解を確実なものにする。また、協働して学習課題を解決する活動により、表現力・見通しをもった思考力の伸長を図る。

特に、本年度より導入された、1人1台端末を活用し、「ロイロノート」「Viscuit」等のソフトを使用し、児童の思考の整理、集団での情報の共有・思考・議論・表現を図る取組や、見通しをもった思考力の伸長を図る取組をすすめる。

(2)児童の学力の実態に応じて、児童一人ひとりに対応したきめ細やかな授業展開を大切に進める。わかる授業づくりを推進し、児童が「わかった できた」という喜びを学習への意欲「楽しいな」につなげる。

(3)地域の環境や産業、歴史に関する達人を授業やそのほかの活動等の学びの場に招聘し、体験的で創造的な活動を積極的に展開するとともに、地域の方々やゲストティーチャー（以下G T）等との交流や親睦を深めながら、社会に開かれた教育実践を行う。

2 具体的な実践例

(1) プログラミング的思考を取り入れた授業づくり

①本校が取り組むプログラミング的思考を取り入れた授業づくりの3つのパターン

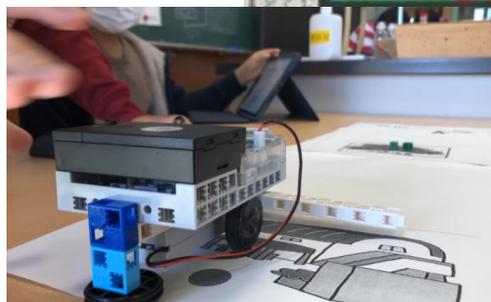
○プログラミング自体が学習の目的・・・「Viscuit」などのソフトを活用し、自分の意図した動きを実行させることを目的に学習する。その際、グループにおいて活発に議論し、動きの修正などを試みる。協働による課題解決を目指し、その中で思考力・表現力を養った。

○プログラミング的思考を利用して教科の目的を達成する授業・・・「Studuino」を活用し、コンピューターへの命令、ロボット(模型自動車)の操作実行を通して教科の学習の理解を確かなものにした。

○プログラミング的思考を利用して教科の目的を達成する授業・・・フローチャートを活用し論理的に理解することを支援した。

②児童の思考の整理、共有を図る取組・・・ロイロノート、シンキングツールを活用してお互いの考えを「見える化」し、情報の共有・思考・議論・表現を図る取組をすすめた。

(2)ティームティーチングを中心に効果的な算数指導を改善。



上:「Viscuit」で作成したアニメーションをプロジェクトマッピングで公開した様子を記載した記事(学習室)(伊勢新聞 12月23日)

下:「Studuino」を活用した防災学習(5年)

算数科の授業では、4・5年生で複数教員による指導を実践している。集団での解決場面をすべての児童が体験する必要からTT授業を中心にを行い、その中できめ細かな支援を行った。



(3)地域人材・教材を活用した体験的な学習

神辺小学校にある地域教材・地域人材を積極的に生かし、体験的な学習を実施した5年生では「防災教育（総合学習）」の一環として、地域を守る取組について学習した。また、6年生では地域の危険個所の調査から、各地区児童会で、下級生に知らせる活動を行った。総合的な学習の時間において、積極的に地域教材を発掘し、計画→調査→作成→表現（随時思考）の学習活動を行っている。



また、地域人材を積極的に活用し、まち探検（1，2年生）、栽培活動（委員会活動）などの授業を行った。地域の人々や環境を大切にする心情が育ってきている。

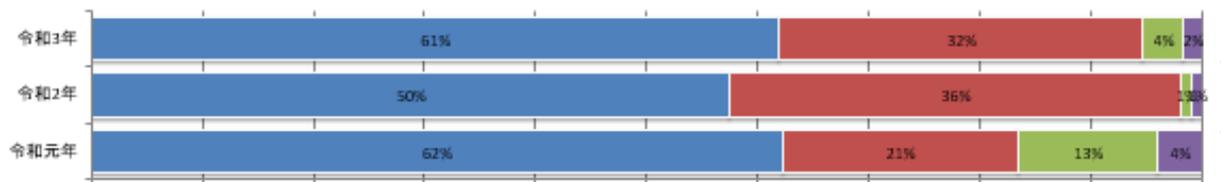
3 成果と課題

(1) 成果

①プログラミング的思考を取り入れた本校の授業について、児童は好感を持っている。

・学校の授業がよくわかる 肯定的な回答 94%

②少人数指導によって、子どもたちの算数科に関する高い意識



教育活動アンケート 「習熟度やT・Tの算数の授業はよくわかる」への児童回答（青：よくわかる、赤：だいたいわかる）

③地域交流体験講座や地域教材の学習など通して、地域住民と児童との交流が深まった。

・「学校は地域の人材を取り入れようとしている」地域・学校関係者アンケートで肯定的な回答、地域90% 保護者85%

・地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動により児童の視野が広がっている。

(2) 今後の課題

- ・少人数指導やTTに対して、ここ数年肯定的な回答する児童が大多数を占めている。神辺小学校の算数指導における最も大切な要素であり、保護者の期待も高いことから、次年度においても継続して行っていきたい。
- ・思考力・表現力を高めるためのプログラミング的思考を取り入れた本校の授業づくりについて、児童は肯定的にとらえている。年間指導計画の見直しを適宜行い、効率よく教科横断的な指導を可能にしていく必要がある。
- ・地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動は、社会に開かれた教育課程の実践においても重要である。効果のある取組をすすめていきたい。

笑顔いっぱい！進んでチャレンジする井田川っ子の育成 亀山市立井田川小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

設置2年目の学校運営協議会を中心に地域、保護者と次のことに取り組んだ。

(1) 学校運営に関する取組

- ・学校経営ビジョン、学校予算、学力向上推進計画、研修デザイン、いじめ防止基本方針、特色ある学校づくり事業計画及び予算の承認。
- ・コミュニティ・スクール推進構想、学校運営協議会年間計画について、意見交換・熟議。
- ・おもな学校行事・PTA行事等について、意見交換・熟議。コロナの状況下で、運動会や教育懇談会など、どのように実施していくのかPTAとも連携しながら検討し、開催に結び付けた。
- ・オンライン授業を視察し、今後の普及や改善点について意見交換。

(2) 学校支援に関する取組

- ・学校ボランティアを募集・登録し、「井田っ子応援団」として組織化した。
- ・「図書館運営」「読み聞かせ」「英語」「学習支援」「登下校見守り」について、感染状況に対応しながら、臨機応変な活動を支援した。
- ・学校運営協議会委員が、放課後子ども教室の運営委員を兼ねることとし、放課後子ども教室（「井田っ子スマイル教室」）運営の効率化をめざした。
- ・コロナの状況下で従来の運動会に代わる行事として、学年別運動会を開催することとし、事前の取り組みに対して学校運営協議会にて助言を得ることができた。
- ・教職員の過重労働の実態について、意見交換を行う機会を得た。

2 具体的な実践例

- ・学校運営協議会委員である亀山防災ネットワーク代表者と連携して、おもに4年生の防災学習を充実させることができた。
- ・地元のボランティア団体「どんこネット川合」による5年生向け「米作り学習」が、感染状況を見極めながら実施することができた。



5年生 田植え体験
どんこネット川合による指導



4年生 防災学習
非常時のロープワーク

- ・放課後子ども教室における学習支援講座の実施、井田っ子スマイル体験講座を通して、地域との交流を深めながら学力向上をめざした。
- ・「なるほどタイム」として教員が学習補充をしたり、地域の先生による学習支援講座を実施したりし、個別指導による学習の定着や意欲向上に取り組んだ。
- ・調理や工作、茶道やフラワーアレンジなどの文化講座を開設し、地域の方による指導を通じて、交流を深めている。今年度は、コロナの影響で開催回数が少なかった。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・まち協や連合自治会、放課後子ども教室、井田っ子応援団（学校ボランティア）などとの連絡調整・連携が充実した。
- ・井田っ子応援団の組織化が進み、ボランティアに関心を持ち活動してくださる方が増えた。
- ・教職員、保護者、地域住民のコミュニティ・スクールへの理解が深まった。
- ・子どもたちの意欲や追求、見通しを持った授業づくりにより、指導力の向上にもつながった。「学習内容がわかる」（令和3年度肯定的評価87%）「学校生活が楽しい」（令和3年度肯定的評価92%）
- ・地域とつながる学習を進めたことで、子どもたちの学習意欲が高まり、体験を通して学びが広がり深まった。「地域の人に学校に来てもらって行う学習は楽しくためになる」（令和3年度肯定的評価93%）
- ・学習規律を共通指導したり、学習環境を整えたりしたことで、落ち着いて学習に取り組む姿が多く見られるようになり、学力向上にもつながった。「集中して授業に取り組んでいる」（令和3年度肯定的評価89%）

(2) 課題

- ・地域とともに目指すビジョンを共有し、将来の学校・地域像を策定。
- ・学校ボランティアの効果的なコーディネートと拡充。
- ・井田川小校区の地域学習人材バンクを設置し、要請に応じて活動する仕組みをつくる。
- ・生活科、総合的な学習を軸としたカリキュラムマネジメントの推進。
- ・子ども、家庭支援ネットワークの充実と人権啓発の推進により、多様性を尊重し、共生の視点での学校・地域づくりに取り組む。
- ・井田川小を核とした地域課題の改善と学校教育活動の充実をともに進めることができる取組を模索し、推進する。
- ・教職員の働き方改革につなげる視点での環境整備、行事や活動の精選を進める。



みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成

亀山市立亀山南小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 学校運営に地域の教育資源を積極的に活用し、地域に根ざした教育活動を行う。
- (2) 可能性を高める体験活動を通して自他を思いやる心や主体的・自立的な態度を育てる。
- (3) 芝生運動場、学校花壇の整備充実を図り、勤労生産活動や体力向上活動から、豊かな心と健やかな体の育成を図る。
- (4) 家庭での学習や生活習慣、人間関係などについて現状把握、分析を行い、その改善に向けた取り組みを推進する。

2 具体的な実践

(1) 地域の教育資源の活用と地域に根ざした教育活動

地域主体の行事である「地域ふれあい集会」は本年度においては亀山南小学校創立40周年行事も兼ねての実施となり、学校運営協議会運営委員会を中心に新型コロナウイルス感染症対策についても議論しながら進められ、参観規模等縮小もあったが、地域の協力を得て実施することができた。6年生の里山学習、5年生の保育園交流、4年生の福祉・障がい者理解等についても延期を余儀なくされるものもあったが、工夫を凝らしてできる範囲の中での地域学習を行った。オンラインでの交流やお手紙・プレゼント等にて交流することによって、直接の対面での交流の実施が難しい時には、よりその時の思いを込める時間が確保されての取組となり、自発的な行動へとつなげることができた。



地域ふれあい集会・亀山南小学校創立40周年記念行事

(2) 子どもの可能性を高める体験活動・自他を思いやる心

活動テーマ「みどり」は、本校の大きな特色である芝生運動場と花壇がシンボルである。芝生の維持管理は課題となるが、年間を通じて子どものケガは少なく、児童の健康増進と体力向上に繋がっている。FBC審査は中止となったが、「緑のボランティア」の指導を

得て、整美栽培委員会が中心に取り組んだ学校花壇は今年度も変わらず立派に咲き誇った。また育てた花を通して、ボランティアによる来校者への花のプレゼントをしていただいた。花壇や学級園での活動が、子どもたちの豊かな心の育成に大きな力と

なっており、地域がそれを支えている。また、「誰もが安心して学校生活を送るために」をテーマに人権集会を行った。本校にて中学校区人権フォーラムを実施した。中学校区の小中学校の代表や教職員と連携して話し合いを持つことができ、さらにその後、6年生がリーダーとなって自分の考えを発表し、人権標語の発表などに取り組んだ。集会を受けて、各学年で学級討議を行い、テーマについて学年の考えをまとめた。

学校花壇テーマ
「笑顔になれる花壇」



各学年人権標語

一年生の標語
いじめの みんなであそぼう うれしいことは
二年生の標語
みんなを大切にしよう
だててみんなを助けてあげよう
三年生の標語
あそびがいたらみんな幸せだもん
助け合い 心のポコを 未来まで
四年生の標語
大丈夫？ 言われてうれしい やさしい言葉
五年生の標語
いろいろな事 入ってすてき
六年生の標語
思いやり 相手を考 想いをわたり

人権フォーラム

3 成果と課題

【成果】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても学びを工夫することで様々な活動を行うことができた。特に新型コロナウイルス感染症を扱った人権学習については、日常的に行うと共に、臨機応変に機を逃さず、全職員周知のもと、実施する事ができた。
- ・ 学校からの情報発信において学校の姿勢や考え方を明確に示していくことができた。
- ・ 学校評価アンケート（保護者）の結果から、学校の取組や指導について肯定的評価の割合が多く、保護者の期待に応えることができつつあるように感じた。

【課題】

- ・ 学校評価アンケート（保護者）の肯定的評価は得ているものの、そのような中で否定的評価を示してみえる保護者の思いを真摯に受け止め、その要因について分析・対応が必要である。
- ・ コロナ禍において、延期や実施を見送った行事や取組については令和4年度にどのような形で実現していくか、組織的、計画的に取り組んでいくことが必要である。
- ・ 天神列車銃撃の学習などこの地域の歴史等を子ども自身の学びとしていく地域学習を総合的な学習の時間を中心に検討していく。
- ・ 地域による学校支援を体制づくりしていくとともに、さらに地域の方々に学校に来てもらい、今まで以上に「地域の学校」と感じられるよう協働していく。

じぶんで なかまと ふるさとから 夢豊かに学ぶ 関っ子 ～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、みんなでわかり、 意欲的に活動する子の育成～ 亀山市立関小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

地域の「ひと・もの・こと」をキーワードにして、みんなでわかり意欲的に活動する子の育成を目指し、「一人ひとりの学びの充実」「地域人材、地域教材の活用」の2つを中心に、下記の取り組みを実施した。

「学びの充実と学力向上」

安心して学べる学習環境づくりを構築するために、人権学習を核として、基礎基本の定着を目的に朝の学習活動や読書タイムを進めていく。

「地域人材、地域教材の活用」

伝統文化、地域行事等を通して、同・異年齢交流を進めることで、思いを出し合い、お互いを認め合うなかまづくりの取り組みを行う。

2 具体的な実践例

(1) 「きく」活動を大切にした学びの充実と学力向上

「きく」（聞く・聴く・訊く）活動を大切にした伝え合える授業づくりを研修の中心に据えて、学びの充実と学力向上を図った。コロナ禍で対面による話し合い活動に制限が加わったものの、タブレット端末などのICT機器を活用しつつ、自他の思いを認め合い、学び合える集団づくりを進めた。互いの考えを伝えあい、自分とは違う見方や考え方に触れることで、思考を深めることにつながった。

あわせて、Q-U分析を活かした学級づくり、支援を必要とする子どもたちの共通理解を教職員間で行うことで、児童に寄り添った形で一貫した指導を行うことを重視した。

また、本校の課題として学校図書館の貸出冊数の伸び悩みが挙げられたが、学校司書からの働きかけ、授業の場としての学校図書館の活用、借り替えをする時間の保証などの取組のほか、おすすめの本の紹介や読み聞かせ等が功を奏し、貸出冊数は伸びてきている。

(2) 「地域人材」「地域教材」の活用

ふるさとの様々な教育資源を活用し、教育活動を推進してきた。特に今年度は、コロナ禍で実施ができなくなった宿泊研修の代替策として体験DAYを実施した。午前中は亀山サンシャインパークでカヌー体験を、午後には校内で創作活動（焼杉、横笛、伊勢型



カヌー体験

紙、竹かご) を行った。実施にあたっては、「Let' s スポーツわくわくらぶ」と「いきいきキッズ応援団 SEKI」に、それぞれ指導や準備などのご協力をいただいた。

米づくりについても、感染症対策を講じたうえで可能な実践を進めた。運動場の田んぼにおける米作りを通じて、植物の成長と収穫の喜びを味わうとともに、教科学習の一助とした。命の尊さ、生命尊重についても学習をした。地域の方にお世話になることで異世代間交流を深めた。

また、学校を安心・安全な学びの場とするために、今年度も消毒活動が欠かせないものとなった。地域・保護者ボランティアと学校職員との協働により、担当曜日を決めて分担し、消毒にあたった。

このように地域の方々と学習や協働作業を行うことで、将来、地域を担い貢献できる子どもを育成したい。



3 成果と今後の課題

(1) 「きく」活動を大切にしたい学びの充実と学力向上

【成果】学校評価アンケート結果の中で、児童・保護者ともに「学校生活を楽しく送っていますか」については児童が 95.0%、保護者は 95.7%の肯定的意見の回答を得ている。また、「勉強がわかりますか」については、児童が 94.2%、保護者が 84.9%の肯定的意見の回答を得られた。多くの児童が「勉強がわかり、学校へ通うのが楽しい」と感じていることがわかる。

さらに、「なかまはずれやいじめをしないで友達と仲良くしていますか／学校はいじめのない楽しい学級づくりに努めていますか」に対する肯定的意見は児童が 97.1%、保護者が 91.9%であり、過去5年を遡っても、最も高値を示している。例えば、「きく」活動のひとつの成果として、自分の意見や思いを相手が聴いてくれ、受け止めてくれると児童が感じ、仲間づくりがうまくいっていることのあらわれであると考えられる。

【課題】「きく」ことに関する達成度には、まだ児童間の差がみられる。また、「きいてくれるからこそ、堂々と自分の意見を言おう」という姿勢に関しても、個人差がある。今後は、伝え合う力をさらに高め、授業が子どもたち主体の意見交換で深化するようにしていく必要がある。

(2) 「地域人材、地域教材の活用」

【成果】学校評価アンケート結果で、生徒・保護者ともに「地域学習の意義」について児童は 92.9%、保護者は 98.9%の肯定的意見の回答を得た。

また、学校運営協議会を通じて校内消毒作業を呼びかけた結果、12月末までで28人のボランティア登録があり、20日間、のべ101人の方に校内消毒作業にあたっていただいた。図書館整備ボランティア、読み聞かせボランティア、サマースクールボランティア、米づくりボランティア、花づくりボランティアと合わせて、計52人の方にボランティアとして学校を支援していただいた。

【課題】 コロナ禍で、特に「まん延防止等重点措置」の出された期間には、せっかく企画した見学や出前授業について、見直さなければならなくなった。関認定こども園アスレや加太小学校との交流活動についても、オンラインに変更したり、中止したりすることを余儀なくされた。児童にとっても保護者にとってもニーズの大きい学習であるため、今後も感染予防対策を講じ、時期をずらしたり形態を変えたりしながらも、なんとか可能な形で実践を進めたい。小1プロブレムや中1ギャップの軽減のためにも、認小中間の交流は重要視していくべきであると考えている。

「加太を大切に思う子の育成」

～子どもたちが生き生きと活動するために～

亀山市立加太小学校

1 特色ある学校づくり推進事業の概要

～小規模学校という特性や加太地区の特性を生かした3つの重点項目～

- (1) 地域のよさに気づき、地域を大切に思う心（郷土愛）の育成
- (2) 地域活力との協働
- (3) 生活習慣・学力の定着及び向上

2 具体的な実践（【】はアンケート結果、☆は目標達成）

- (1) 地域のよさに気づき、地域を大切に思う心（郷土愛）の育成

①ふるさと学習の推進

○地域教材（ひと・もの・こと）の開発

「鹿兎城」地域史跡学習や加太小の昔の様子調べ等。（低中高学年 年間2教材実施☆）

○児童集会・授業参観での学習内容発信

児童による「ふるさと学習」発表。

【ふるさと学習児童肯定的回答 100%☆
保護者肯定的回答 100%☆地域肯定的回答 100%☆】

○多羅尾小オペレッタ視察

（新型コロナ予防のため今年度は開催中止）

- (2) 地域活力との協働

①地域体験生産活動と食育活動の推進

○2年さつまいも作り⇒「やきいも体験大会」、3・4年梅栽培⇒「梅ジュース」、5年(全校)もち米作り⇒「全校もちつき大会」、6年自然薯作り、「うどん作り」【地域体験生産学習 児童肯定的回答 100%☆、保護者肯定的回答 100%☆、地域肯定的回答 100%☆】



《ふるさと学習の発表》



《自然薯づくり》



《田起こし体験》



《田植え体験》



《稲刈り体験》

○お世話になった地域の方々へのお礼

2学期に教育懇談会の参観で「加太のよさを伝えよう」というテーマで、児童が加太

の自然や文化の良さをプレゼン形式で発表した。地域や保護者の方々も参加し、温かい感想をいただいた。また、やきいも集会や全校もちつき体験を開催し、お世話になった方々を招待することができた。3学期にはさつまいも、自然薯、お米、梅などで協力していただいた方にお礼の気持ちを表す児童集会を開き、動画で配信した。

②地域への情報発信

○学校だよりや行事案内回覧、つむぎ通信全戸配布（校長室より）、ホームページの随時更新による発信等。

【学校は、家庭との連絡を密にしている保護者肯定的評価 93%】

③学習ボランティアの活用

○地域教材（米、梅、自然薯、さつまいもの他、花いっぱい活動や読み聞かせボランティアなど。【年間20名☆】



(3) 生活習慣・学力の定着及び向上

①効果的な複式指導の在り方及び授業改善について

○豊かなことばの使いてをめざした（国語）の授業研究

三重大学の守田教授、亀山市教育委員会北川指導主事を招聘し、指導を仰ぎ授業力向上を図った。

【授業がわかる 児童肯定的回答 97%、保護者肯定的回答 93%】

②生活習慣の向上・家庭読書の啓発

○朝の読書タイムの設定。年間目標読書量を設定した意欲付けの取組。

【本を進んで読もうとしている児童肯定的回答 77%】

○チェックシートの活用3回、学校だよりでの結果の報告及び啓発。

③たてわり班活動の充実と仲間づくりについて

○学級レポートの交流とQ U調査の活用

【学校は楽しい 児童肯定的回答 94% 保護者肯定的回答 93%】

3 成果と今後の課題

<成果>

- ・ コロナ禍の制限がある中、少人数の良さを生かし、ふるさと学習や生産活動を通じて、保護者・地域住民の協力を得ながら、充実した特色ある教育活動を行うことができた。
- ・ 地域の歴史や産業を学ぶ中で新たな発見ができ、地域への関心が高まった。また、学びを通して地域の方とのつながりが強まった。【ふるさと学習は有意義:保護者肯定的回答 100%☆、地域肯定的回答 100%☆】

<課題>

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で「社会に開かれた教育課程」を実現するために、教科横断的にめあてをしっかりとって、計画の見直しを加えながら、児童の主体的な学びと協働的な学びをさらに促進する。
- ・ つむぎ活動の継続発展とともに、加太小学校の特色豊かな学びの存続と加太小の将来も見据えた議論を保護者や地域の方々とさらに深めていく。



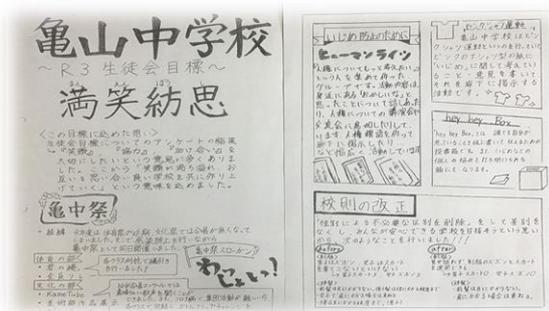
1 特色ある学校づくり推進の概要

- ①人権、平和、福祉、いのち（性・安全）に関する学習を行う。仲間を大切にする思いやりにあふれた心の育成に努める。
- ②PTAと連携してスマートホンやインターネットとのつきあい方、家庭学習時間の確保などについて家庭に呼びかけるとともに、学習習慣の育成と学習支援の充実に向けて取り組み、確かな学力の向上に努める。
- ③生徒会活動として地域の行事への参加、福祉施設との交流、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域と学校の連携を図る。
- ④生徒と職員の共通取り組み課題のひとつに「校内環境整備」を設定し、教室環境を整えることや校内美化活動の一層の充実に取り組む。
- ⑤学校の課題やめざす生徒像を地域や保護者と共有し、地域とつながり続ける体制づくりを推進する。



2 具体的な実践

(1) 生徒会の自治活動の活性化



「コロナ禍においても、笑顔に満ち溢れ、お互いを思いあい、よい学校をともに作りあげていく」という思いを込め、「満笑紡思（まんえんぼうし）」を今年度の生徒会目標に掲げ、生徒が主体となった活動に取り組んだ。

生徒集会では、生徒会研修会での報告や「亀中祭」の提案、校則の見直し、姉妹校交流の還流報告、ピンクシャツ運動等を発信した。

①校則の見直し

「性別による不必要な区別を削除」をすることにより差別をなくそうという多くの声があり、昨年度より制服選択制を導入している。今年度はさらに「頭髪」に関して男子、女子という言葉削除し改正をおこなった。

③姉妹校交流

亀山中学校では、平成10年より岡山県高梁市立高梁中学校と姉妹校交流を行っている。今年度の姉妹校交流は夏季休業期間にオンラインでの開催となったが、お互いの生徒会の活動や行事の紹介、クイズのレクレーション等で交流を深めることができた。

④亀山中ピンクシャツ運動

11月2日、「亀中祭」の日に合わせて生活委員会を中心に「ピンクシャツ運動」を行った。各学年で「いじめをなくすために、自分ができること」を1人ひとりが考え、クラスごとに掲示した。



(2) 授業公開ウィークの取り組み

地域や保護者に学校の様子を公開し、生徒たちの様子見ていただくため、新型コロナウイルスへの感染対策をとったうえで1学期に授業公開を行った。感染対策として人数を分散させ公開期間を1週間設けて、保護者の都合のよい日に参観に来ていただいた。

のべ106名の保護者の方および小学校の先生方に参観していただくことができた。

学期に1回程度は、このような参観の機会を設けたいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症のまん延のため残念ながら2、3学期は実施することができなかった。

(3) キャリア教育の取り組み



今年度は2年生の職場体験学習が中止となったため、キャリア教育の一環として地域で活躍する卒業生を講師に招き「夢をもつことの大切さ」について講演会を開催した。幼いころからの夢であるF1レーサーを目指し、日々努力を積み重ねているというお話を聞き、将来の進路や職業選択について考えることができた。

(3) 豊かな心の育成と絆づくり

3年生を送る会・いのちの日講演会

2月、佐藤敏郎さんを講師に迎え「3.11を学びに変える」という演題で講演会(オンライン)を開催した。東日本大震災から今年で10年が経ったが、震災のことを知らない生徒がほとんどである。遺族でもあり教員でもある佐藤さんから貴重なお話を聞かせていただいた。たくさんの命が教えてくれた教訓を忘れず、いざという時に自分の命や大切な人の命を守るために、どのような行動をとればよいのか改めて考えるよい機会となった。

3 成果と課題

コロナ禍において学校行事の実施について見直しや検討を重ねる中、生徒が主体となる活動の在り方を模索し、さまざまな制限がある中でも実施できたことが成果である。

一方、保護者や地域の方を招いて学校の様子を実際に見ていただくことや、交流することがほとんどできず学校評価アンケートにおける保護者評価も多くが昨年を下回る結果となった。今後は、保護者や地域との連携の強化に努め、学校運営協議会の活動をさらに活性化していく必要がある。

「学校・保護者・地域が一体となった人づくり ～心豊かにたくましく～」

亀山市立中部中学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

『主体的に学び 心豊かに たくましく生きる生徒の育成～“深く学び合う”場の創造を目指して』を基本理念に、取組を展開した。また、本年度は学校運営協議会立ち上げから2年目の年であり、その存在を周知すると共に、学校・家庭・地域が一体となり、連携・協働してそれぞれの教育力の向上を図るべく情報共有を進めた。

取り組みの視点

- ① 学校運営協議会の地域連携・学校支援・環境整備の各部会と連携して、学校・保護者・地域が一体となって活動に取り組む体制づくりを推進する。
- ② 命の大切さの学習など人権教育を中心とした今日的な課題を位置付けた講演会等を「いのちの授業」として開催し、生徒の人権意識の向上を図るとともに、保護者・地域に公開することで、人づくりの啓発を行う。
- ③ あいさつ運動や青少年赤十字活動などの活動に取り組み、ボランティア活動を通して地域との連携を強化するとともに地域の活動に生徒を積極的に参加させる。
- ④ 生徒会組織を中心として、環境整備に努め感性を育てるとともに、生徒自身が主体的に活動に参加することで、生徒の自治能力向上に努める。

2 具体的な実践例

視点①について

本校と校区内3小学校（野登小、川崎小、井田川小）との間において展開する「中部中学校区コミュニティ・スクール連携推進事業」の一環として、「みつまた★絆プロジェクト」を実施した。これは、かねてより野登小学校において、「みつまた」を原材料に卒業証書を作る取組が行われてきたことから、絆の証として中部中にみつまたを植樹し、いずれ野登小学校の卒業証書の一部になるよう進める事業である。

11月4日に行った植樹式当日は、両校のCS委員・児童・生徒・野登地区の方々が一堂に会し、協力して24本を植樹した。生徒間の交流、地域連携、環境整備の面でも大変良い機会となった。



視点②について

三重県立こころの医療センター・ユースメンタルサポート MIE より講師を招き、2年生

を対象に「メンタルヘルス講演会」を開催した。こころの不調と病気、ストレス対処、自殺予防等について、生徒が自分にできることを考える有意義な時間となった。

学校の歯科医と歯科衛生士を講師に招き、リモート配信で「歯と口腔の保健指導」を受けた。生徒の感想文には、「今すぐにでも歯を磨きたくなった」等の言葉が並んだ。

視点③について

これまで本校の生徒がボランティアとして全面協力していた「川崎ふれあいフェスタ」に、今年は生徒の作品展示という形で交流を図った。家庭科・美術科の作品や、吹奏楽部の演奏動画を、川崎小の児童や多くの地域の方々にしてもらい、大変好評を博した。



視点③④について

花の栽培を通して、学校から思いやりの心を広げることがを目的とした、「人権の花」運動の委託を受け、中庭に生徒たちでピンカやビオラの苗を植えた。これは中庭を憩いの場として再生する「中部チューリップラン」や、いじめ反対の意思を示す「ピンクシャツ運動」と連動させており、本校ではピンク色の花を選んだ。苗はプランターにも植え、校区内のコミュニティセンターや、不登校生の支援拠点「フリースペースかめっこ」に届けた。



3 成果と今後の課題

【成果】 学校評価アンケートの結果では、「先生は生徒のことをよく理解しているか」「仲間づくりの学習に真剣に取り組めたか」についての生徒評価が向上しており、校内人権フォーラムなど人権学習の成果が表れた。また、「教科横断的な学習を意識してキャリア教育を進めたか」という教師への項目で、肯定的意見が100%となった。

【課題】 生徒・保護者・教師の三者に共通して評価が低かったのが、「福祉活動・ボランティア活動」「地域の行事に積極的に参加しているか」の項目である。今後も、地域や家庭と双方向のコミュニケーションがとれるよう進めていきたい。

幸せ関中学校計画

～子どもたちの夢を叶えるために～

亀山市立関中学校学校運営協議会

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 地域との交流の強化

生徒が地域に出て行き、ふれあいの場を作る。それをもとに、地域の方々が気軽に来校できる雰囲気を作る。

(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

保護者は勿論、周りの大人がアンテナを張り巡らせ、諸機関と連携しながらより良い学校運営に当たる。

(3) 教育から導育への提案

教えて育てる子どもが受け身の「教育」から、「これをやってみたい、あれをやってみたい」という気持ちに子どもの心を導き育てる「導育」を展開する。

2 具体的な実践例

(1) 地域との交流の強化

①関中人権フォーラムと関中校区人権フォーラム、三中学校交流会の開催

関中人権フォーラムでは、講師先生の講演内容を元にして、全校で人権問題についてのディスカッションを行った。また、校区人権フォーラムでは、校区内の小学6年生全員が本校に集まり、人権に関して考える機会をもった。三中学校交流会では、各校の代表者が集まり、本校を会場とし、人権について交流を行った。



校区人権フォーラム

②学びの基盤づくりとしての出会い学習の実施

[1年生] …三重県の人権学習との出会い（三重県人権センター）

[2年生] …職業人から学ぶキャリア教育（三栄林産（株）坂 茂哉さん）

[3年生] …三重の歴史と産業を発見する体験学習（熊野・鳥羽）

③関認定こども園アスレの園児たちとの交流

関認定こども園アスレの園児たちがチューリップを植えに来校した。また、その際3年生は家庭科の保育実習として園児たちと交流した。



園児との交流

(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

①キャリア教育への支援

キャリア教育において、2年生生徒を対象に「工芸（七宝焼き）」「木材加工」「造園」「動画作成」の4つの職業につながる活動を設定し、各々希望に分かれて活動した。また、7月には地域の美容師の方、10月には地域で林業・建築業を営む地元企業の方、また、12月には消防士の方をゲストティーチャーとして講演いただき、働くことの意義や職業観について生徒たちに伝えた。



動画



木材加工



造園



工芸

②学生ボランティアの活用

地元出身の大学生のボランティアが授業や日常生活において、生徒の支援を行った。

(3) 教育から導育への提案

CSのテーマ「しあわせ関中計画」を目指し、「大人も子どもも幸せになるコミュニケーション～ペップトークを日常に！～」として講師の方を招いてPTAとともに教育懇談会講演会を開催した。



教育懇談会講演会

(4) 広報による情報発信事業

定期的な通信の発行と学校ホームページの活用により、各種行事の場面等での本校における様々な取組を、保護者や地域に向けて発信した。また、一昨年発行の冊子「やる気スイッチのありか」を再編集し、学校運営協議会の考える子育てのヒントを冊子にまとめたものを保護者に配付した。

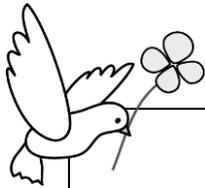
3 成果と課題

【成果】

- ① 関中学校ホームページの更新や効果的な編集を行い、保護者や地域の方が「見たいな」とか「必要だな」と思えるものになるよう工夫した。学校の取組みや学校運営協議会の取組みが広く伝わった。《通信や懇談会等で様子が分かる 保護者 97%》
- ② 学年ごとに実施した様々な「出会い学習」や人権フォーラムを通して、自分の身の周りにある人権課題に気づき、考えようとする生徒の姿が見られた。
《人権学習の機会の充実に関する肯定的評価 生徒 95%》
- ③ 職場体験を校内でできる体験に切り替えたり、職業人の講演会の回数を増やしたりしたことで、コロナ禍でも生徒がキャリア教育の機会を持てるように考慮した。
《進路学習の機会の充実に関する肯定的評価 保護者 95%》
- ④ CSのテーマ「しあわせ関中計画」を目指して、昨年に引き続きペップトークの講演会を行い、地域の方、保護者の方と意識を共有することができた。

【課題】

- ① 学校評価アンケート等から家庭学習の定着化・習慣化に課題があることが明らかになった。今後家庭・地域と連携し、全校体制による補充学習の充実を図る必要がある。
- ② 地域教育資源を活用した教育活動を積極的にすすめ、子どものがんばりを積極的に発信し、自己肯定感をもって主体的に実践行動できる生徒を育成する必要がある。



令和4年3月 発行

亀山市教育委員会

〒519-0195 亀山市本丸町5-7-7番地

TEL 0595-84-5076

FAX 0595-82-6161

E-mail kyoushien@city.kameyama.mie.jp